

ていることが市側から明らかにされたことである。

暮れの「地域社会を考える区民懇談会」では、本山市長が一約束したことは守る。担当係員が変わっても「と言明して、部下の、ややもすれば逃げとごまかしの応待ぶりに反省の色を見せた。

第九回総会（十一月九日）では現役員が明年四月まで残留し、四月を新しい年度入りとすることが決まった。

昭和54年度の主な活動記録

54・1月 気流調査実験（大気拡散調査）の全資料提出を当局に要望。

2月 特別研究部会（研究部とは別）が発足。

3月 反対看板修理と新設。風船揚げデータの三年分まとめる。

4月 会と市による気流調査勉強会開く。

5月 渡辺市議と懇談。不在地主調査完了。

6月 本谷、増田両市議とそれぞれ懇談。

市議会建設環境委員会所属の各党議員への陳情開始。

7月 筒井県議、河上前市議と懇談。

8月 名古屋市基本計画素案を考える名古屋区民の集

いに出席、緑化推進と自動車道路促進との矛盾つく。

11月 第九回総会。四月を新年度としそれまで役員残留を決定。

12月 地域社会を考える区民懇談会に出席。

昭和55年度の活動

オリンピックの名古屋招致活動がすっかり表面化し、高速道路も1号線は東名阪高速道路と接する中川区千音寺I Cから中村区烏森へ向かって工事が進み、2号線は大高I 円上の完成について円上―東新町への着工準備が始まった。これに付随するかのように市と公社は、緑橋と新池付近の換気所（トンネルの排気塔）で二月末に環境測定（気流調査など）をしたいと申し入れ、結局、会も了承して実施された。

第十回総会は四月十九日。本年からこの四月からを会の新年度とすることとし、早川会長、事務局、部長会（ただし部長は月ごと交代も可）の体制でスタートした。筒井県議、本谷、増田両市議が来賓として出席された。

五月、気流調査の補完作業をしたい旨の申し入れが当局からあったが延期を回答（七月に実施された）。名大の中川先生を囲む勉強会や市との交渉が続く。

七月十九日の渡辺市議、加藤西山学区区政協力委員長との懇談を皮切りに、河上氏、増田市議、筒井県議、本谷市の懇談が八月いっぱい行われた。加藤区政協力委員長との「ルート変更がよい。学区へ呼びかける場をつくる」との発言や各議員の激励、協力が心強かった。九月には再び加藤委員長と懇談した。

吉池登氏を中心とする特別研究会の労作「市と公社による気流調査実験の問題点を指摘する」が完成したが、会員への公表と当局への提出は行われなかった。

十一月の会員アンケートでは、運動の進め方については従来どおり・強化が78%、学区への呼びかけは賛否半ば、組織・運営では各種意見の乱出で統一方向がなく、役員志向者の少ないが目立った。

昭和55年度の主な活動記録

55・2月 換気所予定二カ所で環境測定なる調査を当局が実施。

4月 第十回総会。会長、事務局、部長会の体制。

5月 気流調査の補完作業実施を当局が申し入れ、延期を回答。

7月 渡辺市議、加藤区政協力委員長と懇談。

市と公社が五月に申し入れた調査を実施。

8月 増田市議、筒井県議、本谷市議と順次懇談。

11月 会員アンケート実施。

昭和56年度の活動

名古屋オリンピック実現か、高速道路はどうなるかで明けたこの年。二月初め当局が環2のアセスメント着手を発表、会も九月末の国際オリンピック委員会での投票（ナゴヤカソウル）をひかえて緊張し切った。組織強化や当局への対応策に鳩首協議を重ね、いよいよ第十一回総会で会の姿勢を決めることになった。その結果、早川会長に留任をお願いし、新たに運営委員制度を布いてベテラン・気鋭十三人が登場、事務局を置いてこれら幹部全員が会の先頭に立つこととした。部長制はなくし、各担当運営委員が渉外・連絡、研究・調査、広報・財務各部の責任リーダーも兼ねる体制。しかも運営委の任期は二年。また会員は特別な

事情のない限り、いずれかの部に属するという臨時体制であった。月一回の運営委開催も決定、会報の連続発行とPR版発行も決めた。また風船揚げは、早朝のデータが得尽くされたので月二回夕刻に行うこととした。

渡辺市議が市議会議長に就任されたのもトピックス。会では六月二十八日の祝賀会に五十人が出席してお祝いするとともに協力をお願いした。

運営委では、オリンピック招致実現とメインスタジアムの平和公園案とに絡み、高速道路1号線が変更計画どおり藤巻町の地下を通して環2の高針ICへ抜けるのでは、従来の反対理由に加えて市にとってさらに致命的となるとの判断から、市に対し「ルート変更」の要望を強力に押し進める決意を固めた。八月、この問題でのアンケート（運営委の意向支持87%）と陳情書添付の署名集め（一三九世帯、四一八人が署名）を行った。

九月五日（市議会の初日）全員陳情。渡辺市議のお骨折りもあり、本山市長はルート変更要望について検討を約束、各党も「会の要望は理解できる」とした。

会では加藤区政協力委員長とも会談。同氏は会の方針に評価を示し、学区民への橋渡しを約束した。そして九月七

日、西山学区内自治会長会議で長村藤巻町自治会長が全の活動ぶり、方針などを詳しく説明した。

この間、八月九月にかけて会では井戸水調査を行い、三十戸もが井戸を持ち、中には七十五にも掘っている家庭があること、水質は多少、問題があることなどのデータを得た。高速道路によって水が出なくなる恐れも、との声があった。

九月末日、オリンピックはソウルに決まった。十二月には大阪空港訴訟の住民敗訴が決まった。しかし、会ではこの年の盛り上がり運動方針を堅持し、今後とも息の長い運動を継続する決意を新たにしていたのだ。

昭和56年度の主な活動記録

56・2月 当局、環2アクセスメント着手を発表。

4月 第十一回総会。運営委制発表。

6月 渡辺市議会議長就任祝賀会に会から五十人出席。

8月 ルート変更要求にしぼる運営委案に賛成87%。

9月 市長、市議会各党へ全員陳情。

井戸水調査完了。

加藤区政協力委員長と会談。西山学区内自治
会長会議で藤巻町の運動を説明。

'88 オリンピックで名古屋、ソウルに敗れる。

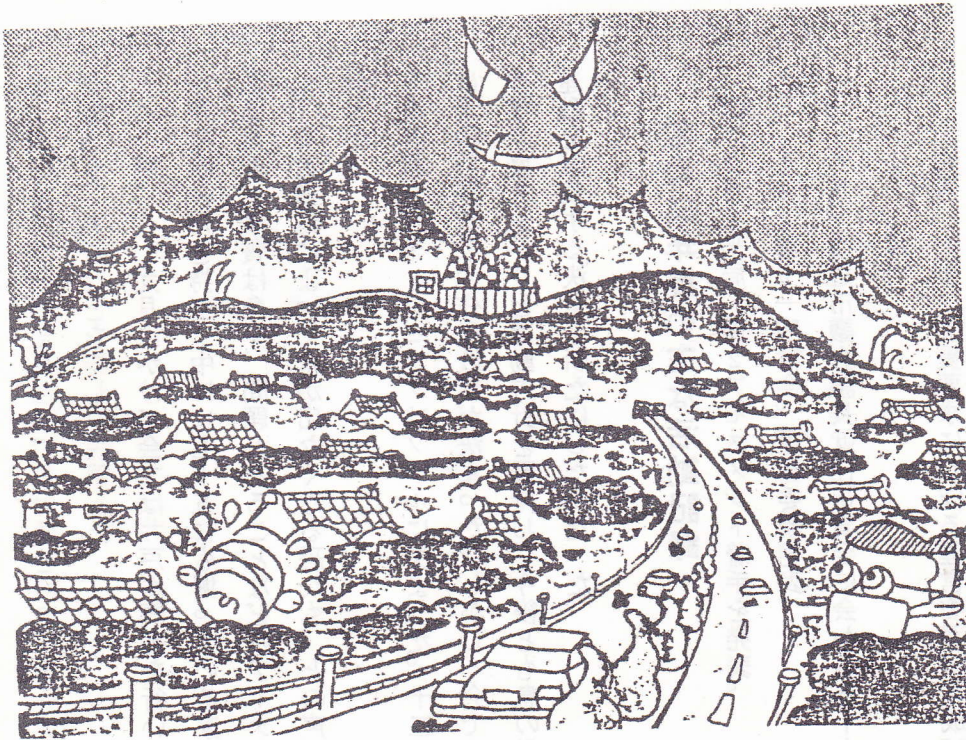
11月 日本環境会議に参加。

昭和57年度の活動

オリンピック開催という事態は消えたが、運動は恒例の
元旦早朝風船揚げで始まった。風船に会名、連絡先名のエ
フをつけて飛ばす新趣向も試みられた。春には鏡ヶ池線反
対期成同盟会長との話し合いや公害道路現地見学会（岡崎
方面）のバス旅行も実施した。イラスト、略図つきの隣接
地区あて広報の発行も始めた。

第十二回総会は四月二十五日。任期二年の運営委制なの
で毎年頭を痛めた人事問題はなく、筒井県議、本谷、増田
両市議、渡辺市議秘書（本人議長で多忙）の来賓出席を得
て、後退なき運動を確認し合った。

夏には、環境庁長官、建設大臣、愛知県知事、各党派連
への陳情、不在地主への再度の協力呼びかけ、風船揚げ全
員参加、高速道路公社への陳情と運動推進に拍車をかけた。
秋、会と市の共同による「環境影響調査」などの勉強会



第2回広域広報使用イラスト